

KANEKA

The Dreamology Company

— Make your dreams happen —

平成28年3月期
決算概要

2016年5月12日(木)

株式会社 **力ネカ**

目次

- 業績概要 P. 1
- 四半期別 売上高・営業利益 P. 2
- セグメント別 売上高・営業利益 P. 3
- セグメント別 事業概況 P. 4
- 業績予想 P. 8

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績概要

- 売上高は、海外事業の拡大により6期連続で増収。前年に続き過去最高を更新。
- 営業利益・経常利益・当期純利益はいずれも大幅な増益。
- R & D強化・グローバル展開による事業構造改革が順調に進展。

(単位：億円)

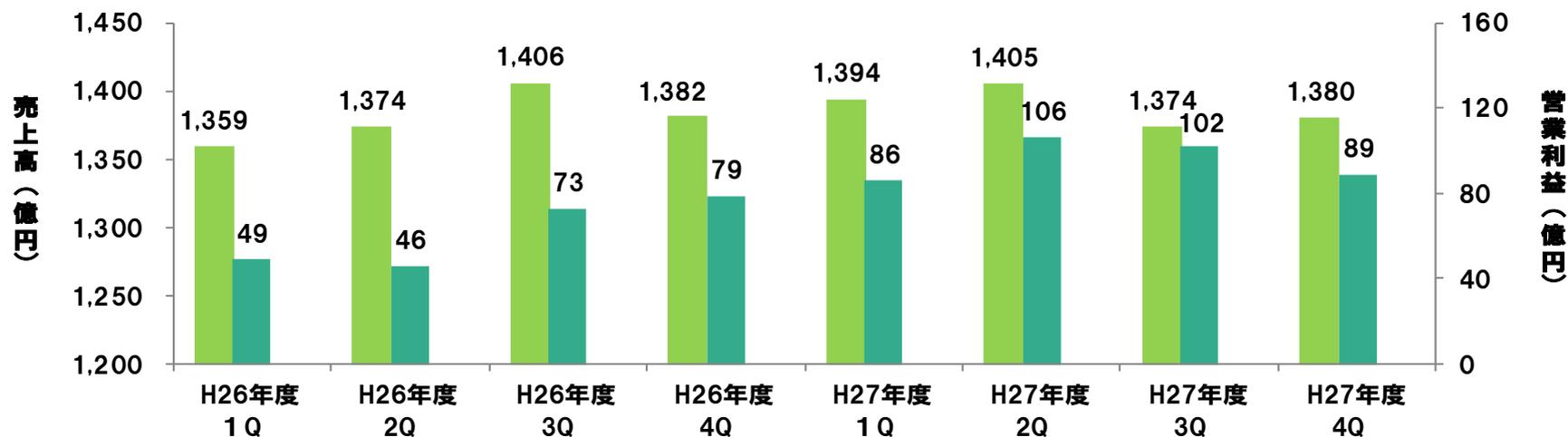
	H27年3月期	H28年3月期	増減	
売上高	5,522	5,552	30	0.6%
営業利益	246	382	136	55.1%
経常利益	248	330	83	33.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	180	210	30	16.4%
1株当たり当期純利益	53.52円	62.98円		
1株当たり配当金	16.00円	18.00円		
ROE	6.3%	7.1%		

四半期別 売上高・営業利益

- 売上高は、原油価格下落による販売価格低下や急速な円高の影響を受けたが、販売数量は順調に拡大。
- 営業利益は、4Qは増益ペースが鈍化したものの、前年3Q以降、収益基盤強化が着実に進んでいる。

(単位：億円)

	H26年度				H27年度			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
売上高	1,359	1,374	1,406	1,382	1,394	1,405	1,374	1,380
営業利益	49	46	73	79	86	106	102	89



セグメント別 売上高・営業利益

- 売上高は3セグメントが減収ながら、営業利益は全セグメントが増益。
- 機能性樹脂・ライフサイエンス・合成繊維は、海外事業を中心に好調な販売により増収増益。食品は、事業構造改革を進め大幅に業績が回復。
- 化成品・発泡樹脂製品は、原油価格下落に伴う販売価格低下の影響を受けたが、収益性の向上により増益。
- エレクトロニクスは、需要低迷の影響を受け減収ながらも採算が改善。

(単位：百万円)

<セグメント別>	売上高				営業利益			
	H27年3月期	H28年3月期	増減		H27年3月期	H28年3月期	増減	
化成品	110,715	103,430	△7,285	△6.6%	2,927	5,568	2,640	90.2%
機能性樹脂	95,387	98,385	2,998	3.1%	11,293	15,117	3,824	33.9%
発泡樹脂製品	66,072	65,148	△924	△1.4%	4,420	6,310	1,889	42.8%
食品	139,729	144,960	5,231	3.7%	1,807	3,748	1,941	107.4%
ライフサイエンス	53,399	58,922	5,522	10.3%	9,342	11,723	2,381	25.5%
エレクトロニクス	42,748	39,123	△3,625	△8.5%	△943	19	963	—
合成繊維、その他	44,135	45,257	1,121	2.5%	12,130	15,658	3,527	29.1%
調整額	—	—	—	—	△16,341	△19,926	△3,585	—
計	552,189	555,227	3,038	0.6%	24,635	38,220	13,584	55.1%

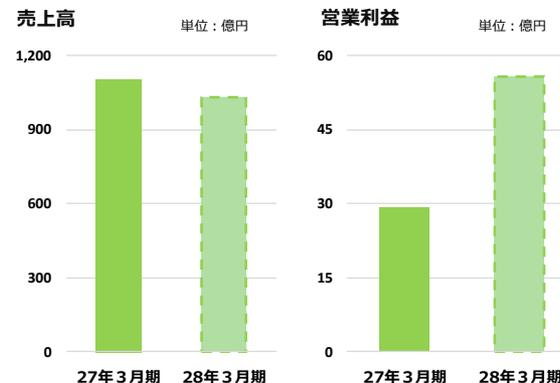
セグメント別 事業概況



化成品

売上高 1,034億円（前期比 6.6%減） ↓ 営業利益 56億円（前期比 90.2%増） ↑

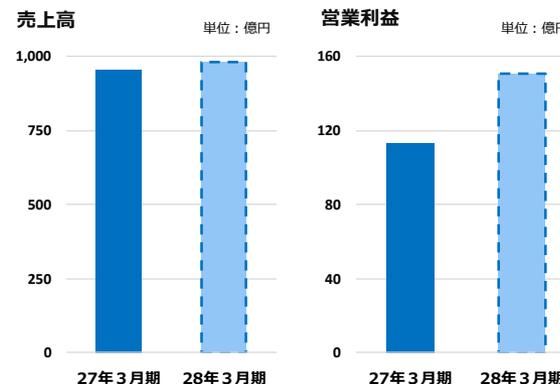
- 塩化ビニール樹脂は、国内需要は低調に推移したが、円安や原料価格の下落を背景として海外向け販売が好調に推移。
- 塩ビペースト樹脂は海外向け販売が増加。また、塩素化塩ビは米国における生産能力増強が販売に寄与。
- か性ソーダは国内需要が低調に推移。



機能性樹脂

売上高 984億円（前期比 3.1%増） ↑ 営業利益 151億円（前期比 33.9%増） ↑

- モディファイヤーは、製品差別化力の向上とグローバルな取り組みを強化すると共に、非塩ビ用途向けなど新製品の市場開発を進めたことで、収益が拡大。
- 変成シリコンポリマーは、建築用途などでの他素材からの置き換えに加え、欧米及びアジア市場での販売が拡大。また、当第4四半期会計期間よりセメダイン株式会社を連結子会社化。



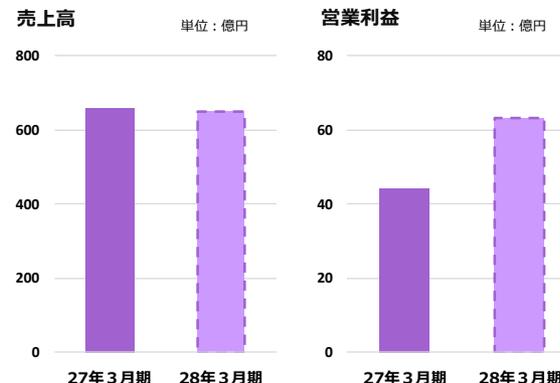
セグメント別 事業概況

発泡樹脂製品

11.7%
売上高構成比

売上高 651億円（前期比 1.4%減）↓ 営業利益 63億円（前期比 42.8%増）↗

- 発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野および土木分野を中心に販売が堅調に推移し、原料価格の下落及びコストダウン効果も寄与して収益が拡大。
- 押出法発泡ポリスチレンボードは、住宅関連市場の回復のペースが遅く、前年並みの販売数量。
- ビーズ法発泡ポリオレフィン は、中国経済の減速の影響を受けたものの、欧州市場での自動車分野向けの販売数量が増加。

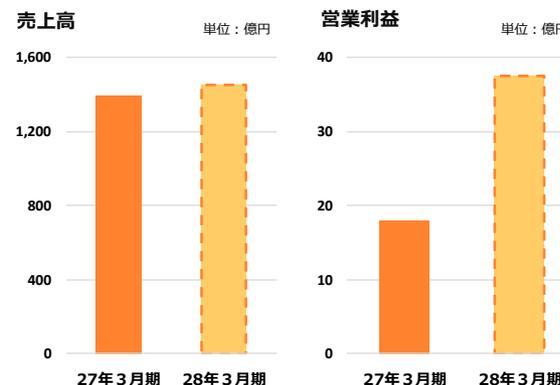


食品

26.1%
売上高構成比

売上高 1,450億円（前期比 3.7%増）↗ 営業利益 37億円（前期比 107.4%増）↗

- 国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、消費者のニーズを先取りした新製品の開発・販売に注力し、販売数量の拡大と製品ミックスの高付加価値化に努めると共に事業構造改革を着実に進めた結果、事業採算は大きく改善。



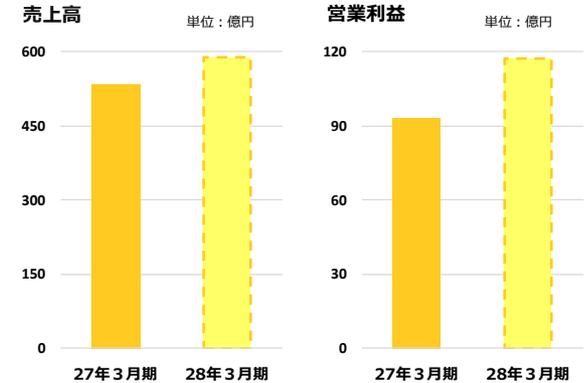
セグメント別 事業概況

ライフサイエンス

10.6%
売上高構成比

売上高 589億円（前期比 10.3%増）↗ 営業利益 117億円（前期比 25.5%増）↗

- 医療機器は、インターベンション事業の国内・海外向けの販売が堅調に推移し、欧米などグローバル市場での新製品の販売拡大や、消化器内治療など新領域への事業拡大、また他社との共同事業にも注力。
- 医薬品は、中間体の販売数量が増加し、API（医薬品としての有効成分を有する原体）やバイオロジクス分野における販売も順調に拡大。
- 機能性食品素材は、日本では機能性表示食品制度がスタートしたことも背景に、海外市場、日本市場ともに着実に販売数量が増加。

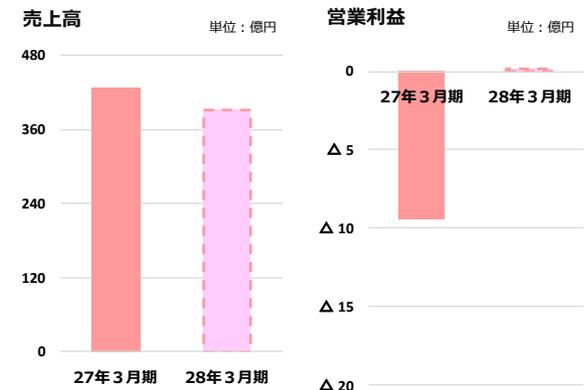


エレクトロニクス

7.0%
売上高構成比

売上高 391億円（前期比 8.5%減）↘ 営業利益 0.2億円 ↗

- 超耐熱ポリイミドフィルム、超高熱伝導グラファイトシート、光学材料は、一般的にスマートフォン市場の需要低迷の影響を大きく受けた。その中で超高熱伝導グラファイトシートは、スマートフォンメーカーでの採用モデルの増加により販売数量が増加。
- 太陽電池は、世界最高レベルの変換効率を誇るヘテロ接合技術を用いた新製品の販売を開始するなど技術開発に注力すると同時に、事業構造改革を引き続き進め、採算が改善。



セグメント別 事業概況

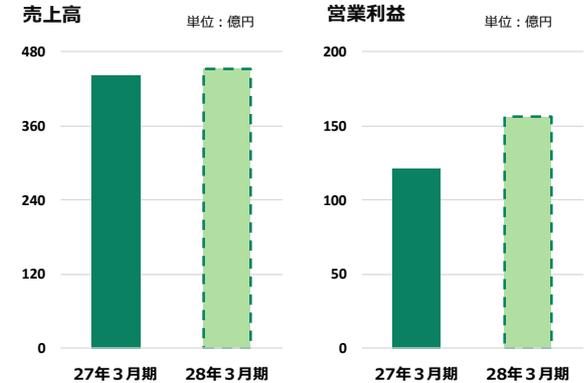
合成繊維、その他



売上高 453億円（前期比 2.5%増）

営業利益 157億円（前期比 29.1%増）

- アフリカ市場での頭髮分野向けの旺盛な需要が持続する中で、当社の品質・ブランド力により好調な販売を継続。
- 円安が続いたことも寄与し、収益が大幅に拡大。
- マレーシアにおける新工場については、早期の稼働に向けた取り組みに注力している。



業績予想

- 世界経済は先行き不透明感が強く、円高の進行など収益環境は厳しいものの、当社グループはR & D強化による新規事業の創出とグローバル化による事業拡大を一層加速させるとともに、既存事業における新製品の上市やコストダウンに注力し、事業構造の変革による収益力の強化を進め、通期では増収増益を達成する計画。

(単位:億円)

	H28年3月期実績		H29年3月期見通し		前期比	
	2Q累計	通期	2Q累計	通期	2Q累計増減	通期増減
売上高	2,798	5,552	2,800	6,000	2 0.1%	448 8.1%
営業利益	192	382	180	420	△ 12 △6.2%	38 9.9%
経常利益	158	330	160	380	2 1.2%	50 15.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	99	210	100	230	1 0.9%	20 9.6%

【H29年3月期 前提条件】 為替レート：110円/米ドル、120円/ユーロ 国産ナフサ価格：40,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

KANUKA

The Dreamology Company

— Make your dreams happen —